

都市再生整備計画 事後評価シート
まきのはら地区

平成23年3月

鹿児島県霧島市

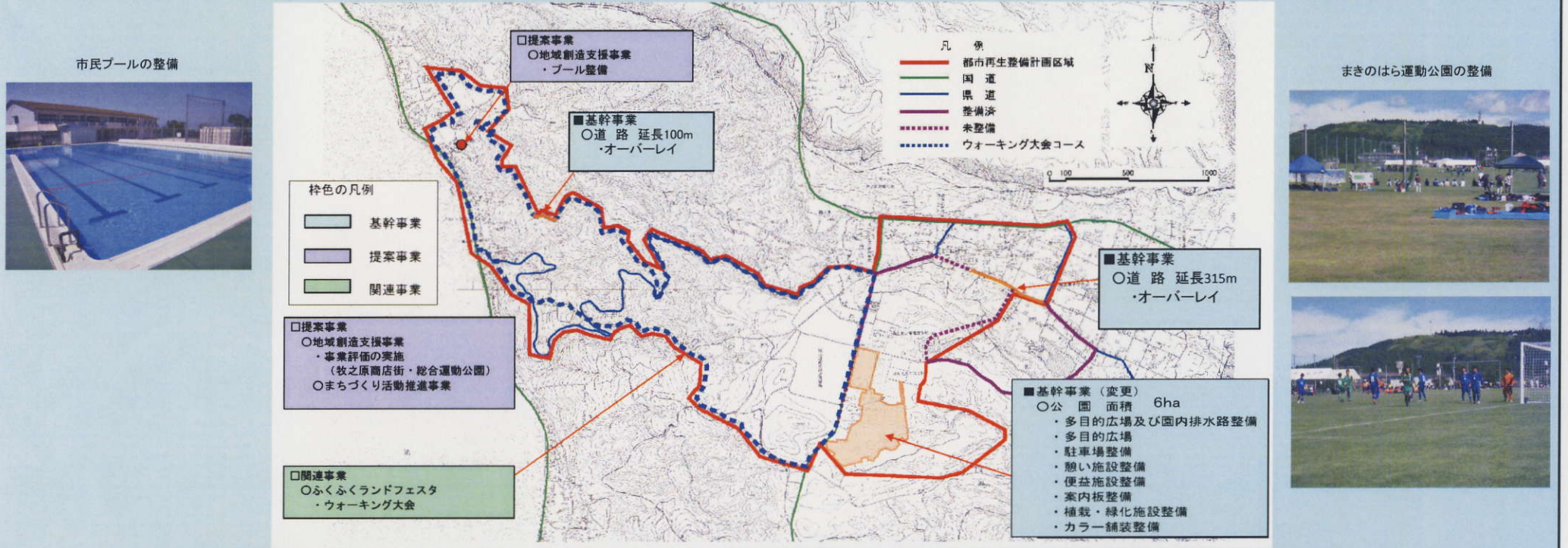
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	鹿児島県	市町村名	霧島市	地区名	まきのほら地区			面積	385ha				
交付期間	平成18年度～平成22年度	事後評価実施時期	平成22年度	交付対象事業費	570百万円	国費率	0.4						
1)事業の実施状況	事業名												
	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業 道路:市道東牧之原線 公園:総合運動公園整備(牧之原そよかぜの里) 提案事業 事業評価の実施(牧之原商店街・総合運動公園)、温泉掘削調査(牧之原そよかぜの里)、啓発・研修活動											
		事業名		削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響						
	当初計画から削除した事業	基幹事業 なし 提案事業 温泉掘削調査(牧之原そよかぜの里)	-			総合運動公園内客数及び総合運動公園の満足度の指標に関係するが、数値目標は据え置く							
	新たに追加した事業	基幹事業 道路:市道東牧之原線・城山線(オーバーレイ) 提案事業 市民プール	市道東牧之原線は当初計画で予定していた道路改築・歩道整備を舗装補修に変更。あわせて市道城山線の舗装補修を追加した。 観光客利用による観光振興及び、総合運動公園と一体化した市民の健康増進を図るため、追加した。			牧之原中心街の通行人数の指標に関係するが、数値目標は据え置く。 まちづくりの目標の1つである「潤いと生きがいを持って暮らせるまちづくり」に関連するため、第1回変更時(平成18年11月)に新たに数値目標を設定した。							
交付期間の変更	当初	平成18年度～平成22年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響			-							
	変更	変更なし											
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標	単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ			
			基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)	予定時期			
	指標1	総合運動公園内客数	人/年	124,943	H16	162,400	H22	-	152,284	△	あり	● まきのほら運動公園の整備により、公園機能の充実や魅力が向上し、利用者数が大幅に増加した。さらに、「ふくふくふれあい館」等の関連施設利用者数も相乗効果にて増加傾向にあり、今後さらに増加していく事が見込まれる。	平成24年3月
	指標2	牧之原中心街の通行人数	人/年	221,188	H16	243,300	H22	-	133,313	×	あり	● 児童生徒数の減少や買い物頻度が低下している等の影響もあり、数値目標は達成できず、中心街としての賑わい回復に向けた課題が残されている現状にある。その中でも、まきのほら運動公園の整備や市道東牧之原線の歩行環境の改善が実施されたことにより、今後地区全体で交流人口が増加し、中心街の賑わいが回復していく為の基盤が整い、一定の事業効果が発現されている。	平成23年5月
	指標3	総合運動公園に対する満足度	%	38	H16	60	H22	-	36	×	あり	● 運動公園の開園からまもなくしたこともあり、ヒアリング対象者の公園利用頻度が低かったことから、数値目標を達成できなかったが、「スポーツ環境満足度」、「日頃運動を行っている人の割合」等が改善傾向にあることなどから、一定の事業効果が発現されている。	平成23年5月
指標4	市民プールの利用者数	人/年	0	H17	8,000	H22	-	1,063	△	あり	● 降灰や長雨の影響等もあり、数値目標は達成できなかったが、新たなプール整備によりプール利用をすることができなかった地域住民等の利用機会が確保され、施設の利用が進んでいることから、近年の傾向が大きく改善されている。	平成24年3月	
											なし	●	
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標	単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ			
			基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度※1	達成見込み	(総合所見)	予定時期			
	その他の数値指標1	「運動・スポーツを行いやすい環境」に対する満足度	%	41	H19	/	/	/	/	/	あり	● まきのほら運動公園と市民プール整備、市道東牧之原線・城山線の歩行環境の改善により、スポーツ、ウォーキング等によって近年悪化の傾向にあった「運動・スポーツを行いやすい環境」に対する満足度の傾向が大きく改善された。	平成23年6月
	その他の数値指標2	「日頃の運動・スポーツを全く行っていない」人の割合	%	35	H18	/	/	/	/	/	あり	● まきのほら運動公園と市民プール整備、市道東牧之原線・城山線の歩行環境の改善によりウォーキングしやすい環境が整ったことにより快適に暮らせるまちづくりが実現されたことが、近年の健康志向の高まりと相まって、「日頃の運動・スポーツを全く行っていない」人の割合が大きく減少した。	平成23年6月
	その他の数値指標3	パークゴルフ場、まきばドームの利用者数	人/年	26,844	H16	/	/	/	/	/	あり	● まきのほら運動公園多目的広場の整備により、市民や近隣市町のスポーツ需要(サッカー、ラグビー、ウォーキング、ランニング等)に幅広く対応する事が可能となり、総合運動公園としての魅力や認知度が向上したことによって、パークゴルフ場、まきばドームの利用者数が増加した。	平成24年3月
その他の数値指標4	ふくふくふれあい館の来客数	人/年	81,315	H16	/	/	/	/	/	あり	● まきのほら運動公園の整備によって、市民の利用のみならず、多数の参加者が見込めるスポーツイベント等が多数開催されるようになったことにより、ふくふくふれあい館の来客数が増加した。	平成24年3月	
4)定性的な効果発現状況	*当事業で整備を行ったまきのほら運動公園については、公園開園に関して地元新聞に報道記事が出るなど、市民の交流・レクリエーションの場として大変大きな注目が寄せられた。また、報道の結果、市民や各種団体からも利用希望の問い合わせやイベント開催の要望が急増しており、誇りと愛着をもてるさどづくりの拠点創出に関して大きな事業効果が上がった。												
5)実施過程の評価	実施内容				実施状況				今後の対応方針等				
	モニタリング	実施していない	都市再生整備計画に記載し、実施できた				-	-					
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した				-	-					
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				-	-					
	住民参加プロセス	霧島市サッカー協会との協議による施設整備への反映	都市再生整備計画に記載し、実施できた				-	-					
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した				●	今後もより良い施設となるよう、地域住民、各種競技団体と連携していく。					
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				-	-					
	持続的なまちづくり体制の構築	各種競技団体の運営支援	都市再生整備計画に記載し、実施できた				-	-					
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した				●	今後も利用者に協力を呼びかけ、親しみやすく、愛着のある施設へとなるよう運営していく。					
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				-	-					

様式2-2 地区の概要

まきのはら地区(鹿児島県霧島市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値
大目標: 総合運動公園(そよかぜの里)に集い「誇りと愛着をもてるふるさとづくり」の拠点の創造 目標 1 安全で安心して快適に暮らせるまちづくり 目標 2 潤いといきがいをもって暮らせるまちづくり 目標 3 地域特産物を創造していくまちづくり	総合運動公園内客数	単位: 人/年 124,943 H16	162,400 H22	152,284 H22
	牧之原中心街の通行人数	単位: 人/年 221,188 H16	243,300 H22	133,313 H22
	総合運動公園に対する満足度	単位: % 38 H16	60 H22	36 H22
	市民プールの利用者数	単位: 人/年 0 H17	8,000 H22	1,063 H22
	「運動・スポーツを行いやすい環境」に対する満足度	単位: % 41 H19		48 H22
	「日頃の運動・スポーツを全く行っていない」人の割合	単位: % 35 H18		26 H22
	パークゴルフ場、まきばドームの利用者数	単位: 人/年 26,844 H16		36,764 H22
	ふくふくふれあい館の来客数	単位: 人/年 81,315 H16		85,533 H22



まちの課題の変化

- 多目的広場の整備により、日頃の運動・スポーツを行いやすい環境や、集客性の高いスポーツイベントが開催できる環境が整ったが、運動公園利用者の利便性の更なる向上にむけては課題も残されているため、今後、市民ニーズに対応した既存のスポーツメニューの拡充に取り組む必要がある。
- 市道東牧之原線の一部整備により、歩行環境が改善され、中心街としての魅力の向上につながったが、まきのはら運動公園と連携のとれた商店街の活性化や運動公園へのアクセス性向上にはさらなる改善が必要である。
- 市民の運動・スポーツを行う環境に対する満足度や日頃の運動・スポーツ頻度の改善が見られ、市民の健康増進に寄与した。
- 福山地区の黒酢を主体とした観光資源に、市民プールが整備されたことにより、レジャーの魅力の向上につながったが、観光レジャーの充実に向けたまきのはら運動公園と福山地区の回遊性向上には改善すべき課題が残されている。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)

- まきのはら運動公園、市民プールの利用促進に向けたソフト事業の展開を図るとともに、運動公園利用者の公園内施設への適切な誘導や今後の利用者ニーズに対応した公園内施設の機能強化を図る。
- 運動公園と一体となった取り組みを展開することにより、商店街の活性化を図るとともに、歩きやすい歩行環境の拡充とまきのはら運動公園との連携機能の強化を図る。
- 市民の健康増進意識をさらに増進するための環境づくりを図る。
- まきのはら運動公園と福山地区の市民プール・観光資源が一体となった集客性向上のための取り組みを図るとともに、まきのはら運動公園と福山地域の市民プール、黒酢を主体とした集客性の高い観光資源との回遊性の向上を図る。